

五泉市村松郷土資料館特別展

五泉・村松に舞った たこ 凧の歴史展



ももいか(間野宏英氏 制作)
龍(左) 清正(右)



村松いか(故 蒲沢眞一郎氏 制作)
弁慶・牛若丸(左) 義経(右)

令和8年3月1日(日)～5月10日(日)

- 【会場】 五泉市村松郷土資料館2階 特別展示室
〒959-1705 五泉市村松乙2-1
電話 0250-58-8293
- 【開館時間】 午前10時～午後4時
- 【休館日】 毎週木曜日
- 【入館料】 一般(高校生以上)130円
団体(20名以上)100円 中学生以下 無料
- 【主催】 五泉市教育委員会
- 【問合せ先】 0250-42-5195



特別講座
4月4日(土)

郷土凧の世界～新潟県と五泉・村松～

「ももいか」と「村松いか」両方を知る凧研究家を招き、職人の貴重映像や知られざるエピソードを交えながら、新潟県、そして五泉・村松の凧文化の歴史について語ります。

- 【講師】 凧研究家・にいがた「なりわいの匠」“凧”・日本の凧の会会員 遠藤裕己 氏
- 【時間】 午前10時～11時30分
- 【会場】 村松公民館 視聴覚室
- 【受講料】 一般(高校生以上)500円 中学生以下 100円(受講時に納入)
- 【定員】 50人(先着)
- 【申込期間】 3月11日(水)～4月2日(木)まで
- 【申込方法】 電話またはメールで申込みください。メールの場合は、氏名、住所、電話番号
中学生以下の方の有無を明記してください。(電話受付:平日8:30～17:15)
- 【申込先】 五泉市教育委員会 生涯学習課
電話:0250-42-5195
メール:s-gakusyuu@city.gosen.lg.jp

特別展HPはこちら



かつて五泉市に存在していた2種類の凧、「ももいか」と「村松いか」。凧は五泉・村松では「いか」と呼ばれ、五月の端午の節句など、地域の伝統文化として親しまれていました。

しかし現在は、時代の移り変わりとともに凧を制作する担い手が途絶え、制作技術や凧揚げの風習を直接知る人も少なくなっています。

本展では、五泉・村松の凧の歴史を現世代に伝え、次世代へと引き継ぐため、郷土資料館で所蔵する凧や、関係者からお借りした凧を展示します。



村松いか(曾我兄弟)



ももいか(波兎)



ももいか(那須与一)



村松いか(め組)

ももいか

ももいかは江戸時代末期から昭和20(1945)年ごろまで五泉地区で親しまれていた凧です。ほかの地域では見られない上部の丸い形が特徴で、名前の由来は揚げた時の様子が動物のモモンガに似ているからという説があります。戦前まで市内の職人が制作しており、当時の端午の節句には多くのももいかが五泉の空に舞っていたといえます。しかし、昭和20年の大火により職人の道具が焼失し、その影響でももいかの文化は途絶えてしまいました。近年になり、市内に住む間野宏英氏によってももいかは復活し、多くの人にその魅力を伝えるべく制作を続けていました。しかし、現在は制作しておらず、間野氏が手掛けたももいかは現存する最後のももいかとなっています。

村松いか

村松いかは江戸時代、参勤交代の時に村松藩主が江戸から持ち帰り、藩内に広めたと伝えられる角凧です。江戸の凧が正統な形で受け継がれているのは、東京の江戸凧、秋田の津軽凧、浜松の角凧、そして村松いかのみであるといわれています。凧絵は歌舞伎絵、武者絵を基本とし、大胆な構図や濃厚な彩色が特徴であるとともに、観賞用を意識した細かいタッチも伺えます。昭和初期まで村松には4軒の凧屋がありましたが、平成9(1997)年に最後の職人、蒲沢真一郎氏が亡くなると、その技術は途絶えてしまいました。

郷土資料館周辺図

郷土資料館(特別展会場)

- ◆磐越自動車道安田I・Cから約25分
- ◆JR五泉駅からふれあいバス「城跡公園前」に下車、徒歩約2分
- ◆高速バス「村松下町」に下車、徒歩約15分

村松公民館(講座会場)

- ◆磐越自動車道安田I・Cから約23分
- ◆JR五泉駅からふれあいバス「村松支所」に下車、徒歩約1分
- ◆高速バス「村松下町」に下車、徒歩約10分



特別展HPはこちら

